

地域研究企画交流 センター活動報告

[国際共同地域研究]

現地に地域研究の拠点を形成し、世界的規模のネットワークを作るという構想に基づく、最初の国際共同地域研究が、9月21日のペルー問題研究所での調印式で正式に発足しました。このプロジェクトは、10年間にわたって拠点を運営し、3年ごとにリマ、ペルー全域、そしてアンデス諸国へと対象を拡大しながら、ペルー問題研究所の研究者と、日本側から派遣される研究者により、政治社会変動の調査を行うものです。また、ペルー問題研究所からも研究者を招き、ワークショップを開催する予定です。機関の連携による長期的、かつ組織的な現地研究が成果をあげ、強力な研究基盤を形成していくことが期待されています。

[国際シンポジウム]

9月17日～19日、『人口移動の基礎研究』第4回国際シンポジウム「東南アジアの人口移動：越境・開発・アイデンティティ」が開催されました。このシンポジウムは、歴史的認識よりもむしろ現代の現象を重視し、現地研究を行っている若手研究者を中心に組織されました。人の移動に伴うジェンダー・システムの変容や、景観のダイナミックな変容に関して、現地で把握され、析出された問題意識が提示されました。

[ニューズレター]

和文ニューズレター『地域研ニュース』No. 7 (1998年8月) および英文ニューズレター *JCAS News*, No. 4 (Summer 1998) を発行いたしました。地域研究企画交流センターの活動に加え、地域研究者のエッセイや地

域研究所の紹介も掲載しております。内容は、地域研ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.minpaku.ac.jp>

[連携研究成果報告書]

地域研究企画交流センターでは、個人研究者による共同研究に加え、国内の研究機関と組織単位で連携することで、持続性・発展性を持つ連携研究も行っております。3年間の研究会活動の成果をまとめた、連携研究成果報告書シリーズの刊行がいよいよ始まります。第1号は山田睦男編『発展途上諸国の農村開発』を予定しております。

[オケイジョナル・ペーパー]

地域研究企画交流センターでは、地域研究を推進していく上で広く提供される価値のある情報を、オケイジョナル・ペーパーとして出版して参ります。これは、発表演語を問わないメディアとして、研究会から派生した議論から現地語の資料まで、オフセット印刷で柔軟に対応していくものです。第1号は、連携研究会から発展した『海域世界研究への誘い：日本・琉球・東南アジア』を予定しております。

[新プログラム]

「現代イスラーム世界の動態的研究」第3班「イスラームと民族・地域性」の活動全体を貫く共通テーマとして「イスラーム世界の共存と摩擦」を設定しました。これに沿って、研究会やシンポジウムの開催、海外派遣、外国人研究者の招聘、資料収集などを行っております。詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.minpaku.ac.jp/jcas/islam_studies/

『地域研究論集』寄稿要項

1. 『地域研究論集』は、地域研究に関する論文、研究ノート、資料、研究展望等を掲載・発表することにより、地域研究の発展に寄与するものとする。
2. 『地域研究論集』に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1)国立民族学博物館の各研究部、民族学研究開発センター及び地域研究企画交流センター（以下「本センター」という）の教官（客員教官等を含む）
 - (2)本センターの組織・運営に関与する者
 - (3)本センターの連携研究機関に所属する研究者
 - (4)本センターの共同研究会に所属する研究者
 - (5)本センターが受け入れた各種研究員
 - (6)その他本センターにおいて適当と認められた者
3. 原稿執筆にあたって本文中で使用できる言語は、原則として日本語とする。注記等においてはその他の言語を使用しても差し支えない。
4. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 寄稿する原稿が論文の場合は、執筆者が選択する外国語で第一ページに収まる程度の要旨をつけるものとする。（欧文の場合で約240語）
6. 原稿には執筆者名のローマ字表記、所属機関、職名および原稿表題の英文表記を付記するとともに、日本語と英語で各5つのキーワードをつけるものとする。
7. 寄稿する原稿の枚数は、400字詰め換算で50枚程度を標準とする。
8. 寄稿する原稿は、原則としてワープロ原稿とし、2部提出するものとする。
9. 寄稿された原稿は、レフェリーによる審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 寄稿された論文などに関して、編集委員会の掲載決定までに、必要に応じて寄稿者に改稿を求めることがある。また、掲載が決定した時点で、寄稿者は原稿を最終確認し、最終稿のフロッピーディスクを提出する。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは必要に応じて編集委員会で処理する。
11. 寄稿者による著者校正は原則として初校のみとする。また、著者校正は、誤字、脱字などの最小限の修正にとどめる。
12. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
13. 原稿の執筆にあたっては、『『地域研究論集』執筆要領』によるものとする。
14. 原稿の寄稿先および連絡先は、次のとおりとする。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

国立民族学博物館地域研究企画交流センター内

『地域研究論集』編集委員会

電話：06-6878-8343 ファクス：06-6878-8353

E-mail：jcasmail@idc.minpaku.ac.jp

(平成10年8月3日 改正)

『地域研究論集』執筆要領

1. 原稿は原則としてワープロ原稿でA4版用紙に横書きとする。
2. 執筆にあたっては、原則として常用漢字、現代かなづかいを使用し、平易な表現を用いる。
3. 用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例となっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにする。なお、一般化していない固有の名称は、初出に限りその原語（アルファベット表記）をカッコ内に付記する。
4. 外来語、外国の度量衡および貨幣単位は、カタカナ書きにする。図表では一般的な単位は記号（m, g, tなど）を用いる。ただし、漢字を用いるものは、適宜もつとも一般的な用法を用いる。
5. 原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし、本文中ではコンマを用いず、万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合には、十数人、数十年などとする。なお、年号は原則として西暦とする。それ以外の歴法を使用する場合は、西暦をカッコ内に付記する。
6. 図、表および写真は、一件ずつ別紙を使い、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図表、写真ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）と表題や説明および出典等を記し、本文原稿の欄外にそれぞれの挿入箇所を指定するものとする。また、図表の大きさ（最大左右12センチ）および写真の場合はトリミングのラインを指定する。
7. 本文中で文献を指示する場合は、原則としてカギかっこを付け、著者名、文献刊行年次、引用ページの順に下記の例に従って記載する。ただし、この例に適合しない場合は、脚注において文献名と引用箇所のみを示すこととする。

例 [中村 1997: 98-99] [Lenoff 1971: 75]

同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

例 [木村 1987a: 12-14] [木村 1987b: 76-79]

また、著者が3人以上の場合は、最初の著者名のみを記す。

例 [斎藤ほか 1986] [Dalton *et al.* 1977]

一箇所でも複数の文献を参照する場合は、異なる文献をセミコロンで区切って列挙する。

例 [大前 1987; Johnson 1988] [宮崎 1989; 1995]

本文の文脈の中で著者に言及し、かつ文献を明示したい場合は、文献のデータのみをカギかっこに囲んでしめす。

例 進藤 [1987] はこれを（中略）と称している。

論文中に参照する文献に、同一姓の複数著者がある場合、漢字表記の場合は名前をカッコ内で、ローマ字表記の場合は名前を頭文字で付記し、区別する。

例 [佐々木 (英) 1986] [佐々木 (伸) 1993]

[Robertson, H. 1989] [Robertson, S. 1996]

8. 脚注が必要な場合は別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中の脚注を挿入する箇所には、脚注の当該番号を*1のように記入し、別紙の脚注には本文の該当ページを明記する。
9. 本文および脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名（複数著者の場合は筆頭著者名）のアルファベット順とする。
 - (2) 単行本、論文の場合とも、著者が複数の場合は、全員の氏名を掲げる。
 - (3) 日本語文献の場合
 - (a) 単行本
著者 出版年 『書名』シリーズ名（カッコ書きしない） 出版社。

[例] 池田明史

1994 『イスラエル国家の諸問題』研究双書 441 アジア経済研究所。

(b)論文

単行本所収論文

執筆者 出版年 「論文名」 編者 『書名』 出版社, 頁。

[例] 石井明

1998 「人民中国の光と影」尾形勇・岸本美緒編『中国史』世界の歴史 3 山川出版社,
420-479。

雑誌論文

執筆者 出版年 「論文名」『雑誌名』 巻(号): 頁。

[例] 福島真人

1988 「内面とカ——ジャワ神秘主義と伝統的政治モデル——」『民族学研究』52(4): 336
-360。

(c)翻訳文献

執筆者 出版年 『書名』 翻訳者 出版社。

[例] ポロンスキー, アントニー

1993 『小独裁者たち—両大戦間期の東欧における民主主義体制の崩壊』羽場久滉子監訳,
越村勲・篠原琢・安井教浩訳, 法政大学出版局。

(d)新聞

『新聞名』年月日 (記事名をいれることが望ましい)。

[例] 『朝日新聞』

1996年5月31日「奔流中国13 経済力つけロビー活動」。

(e)未刊行物

著者・執筆者 印刷年 「論文名・資料名」 印刷元 (提出先)。

(f)文書

執筆者 作成年月日 文書名(種類・文書番号) 所蔵機関(名称・場所)。

[例] 斎藤良衛

作成年不詳 「日独伊同盟条約締結要録」外務省記録 B.1,O.O.J/x3-7。

(g)オンライン文献

サイトの詳細なアドレスと参照した日付。

[例] <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kaidan/yojin-98/9807.html> (1998年7月16日)。

(4)外国語文献の場合

(a)単行本

著者 出版年 書名(下線) 版次 出版地 出版社。

[例] Carr, E.H.

1946 *The Twenty Years' Crisis, 1919-1939: Introduction to the Study of International Relations*. London: Macmillan.

(b)論文

単行本所収論文

執筆者 出版年 論文 In 編者名 ed. 書名(下線) 出版地: 出版社, 頁。

[例] Pease, Donald E.

1993 Hiroshima, the Vietnam Veterans War Memorial, and the Gulf War: Post-National Spectacles. In Amy Kaplan and Donald E. Pease, eds., *Cultures of United States Imperialism*. Durham and London: Duke University Press, pp. 557

雑誌論文

執筆者 出版年 論文名 雑誌名 (下線) 巻 (号) : 頁.

[例] Lokanathan, P. S.

1991 Regional Co-operation and Development, *Indian Economic Journal* 21(3): 396-400.

(c) 翻訳文献

執筆者 出版年 書名 (下線) 翻訳者 出版地 : 出版社.

[例] Urban, Otto

1994 *Die tschechische Gesellschaft 1848-1918*. bers. von Henning Schlegel. Wien, Köln und Weimar : Bhlau Verlag.

(d) 学位論文

執筆者 提出年 論文名 論文の種類 提出先.

[例] Ross, Doroth

1998 "The Indo-Pakistan Relations in 1978," Ph. D. dissertation, Columbia University.

(e) 新聞

新聞名 (下線) 出版年月日 (記事名をいれることが望ましい).

[例] Niebuhr, Gustav

1996 (June 25) Public Supports Political Voice for Churches, *New York Times*.

(f) 文書

執筆者 作成年月日 文書名 (種類・文書番号) 所蔵機関 (名称・場所).

[例] NSC 41

1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D. C.).

(g) 議事録・政府刊行物

おおむね、その機関、国によって通常とられている表記法を採用する。

(h) オンライン文献

サイトの詳細なアドレスと参照した日付。

[例] <http://www.info.usaid.gov/democracy> (1998年5月7日).

(平成10年8月3日 改正)

お知らせ

『地域研究論集』では、読者と筆者の討論の場として「地域研究フォーラム」の欄を設けております。掲載論文等に関するコメントを、電子メール、ファックス、あるいは郵送で、編集委員会までお寄せ下さい。採否についての決定は編集委員会において行います。

『地域研究論集』 JCAS Review Vol. 2 No. 1

特集：帝国日本の残像 ―地域研究と植民地学―

初版発行 1999年 3月10日
編集・発行 国立民族学博物館
地域研究企画交流センター JCAS
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6878-8343 FAX 06-6878-8353
E-mail: jcasmail@idc.minpaku.ac.jp
制作 株式会社 平凡社
〒152-8601 東京都目黒区碑文谷5-16-19
電話 03-5721-1253(編集) 03-5721-1234(営業)

ISSN 1343-1897

©国立民族学博物館 地域研究企画交流センター

©1999 by the Japan Center for Area Studies.

Published by the Japan Center for Area Studies,

National Museum of Ethnology, Osaka, 565-8511 JAPAN Printed by Heibonsha